

四國公使密議

外交上の新問題か

北京駐英公使は十九日午後一時、日公使を訪問し、帝政問題及び南方擾亂に關し、一時間、互に密議せり。支那側は、新なる外交上の難問題發生すべしと憂慮しつゝあり(北京特電)

獨逸の對和蘭回答

獨逸政府は、二月四日、獨逸水雷艇司令官の獨逸に關する質問書に答へて曰く、水雷艇の發行は司令官の行為なることを承認し、司令官の不法を、此の事件に生ずる損害に對して出來得る賠償の方法を取るべきを聲明せり(獨逸電)

イール戦線敗退

伯倫公報は、イール戦線の敗退に關し、英軍は、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

川村中將著神

川村中將は、獨逸軍の進攻に對して、神速の行動をとり、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

租稅收入成績

本年一月、租稅收入は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

平壤府の財政

平壤府の財政は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

海州信用組合

海州信用組合は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

浦本

浦本は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

山群

山群は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

大連

大連は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

雪北

雪北は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

論山彌勒寺より

論山彌勒寺は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

山釜

山釜は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

大連油脂會社

大連油脂會社は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

雪北

雪北は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

雪北

雪北は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

雪北

雪北は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

雪北

雪北は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

雪北

雪北は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

雪北

雪北は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

雪北

雪北は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

雪北

雪北は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

雪北

雪北は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

雪北

雪北は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

雪北

雪北は、前年同月比、増加した。これは、獨逸軍の進攻に對して、成功を以て行はれつゝあり(獨逸電)

緊急廣告

大邱營業所

大邱營業所

白檀油代用藥

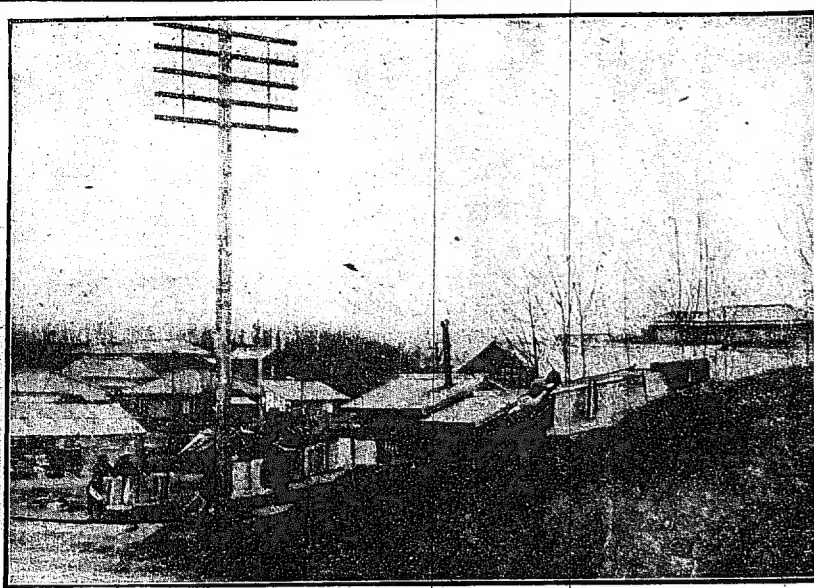
ビルサボ

新刊書御案内

大邱營業所

大邱營業所

大邱營業所



龍山新軍用地の地均工事

蘇つた龍山市街(六)

將來を見越し機敏なる計畫

「米の空になる時、夫婦喧嘩が起る」と云ふのは、古語に云はれる如く、不景氣が起るといふものだ。龍山は、米の空になる時、夫婦喧嘩が起る。龍山は、米の空になる時、夫婦喧嘩が起る。龍山は、米の空になる時、夫婦喧嘩が起る。

堅實な氣風

龍山は、米の空になる時、夫婦喧嘩が起る。龍山は、米の空になる時、夫婦喧嘩が起る。龍山は、米の空になる時、夫婦喧嘩が起る。

借地と借家

龍山は、米の空になる時、夫婦喧嘩が起る。龍山は、米の空になる時、夫婦喧嘩が起る。龍山は、米の空になる時、夫婦喧嘩が起る。

雨々相進む

龍山は、米の空になる時、夫婦喧嘩が起る。龍山は、米の空になる時、夫婦喧嘩が起る。龍山は、米の空になる時、夫婦喧嘩が起る。

大飛行中止

龍山は、米の空になる時、夫婦喧嘩が起る。龍山は、米の空になる時、夫婦喧嘩が起る。龍山は、米の空になる時、夫婦喧嘩が起る。

日本生命保險株式會社		損益計算書		貸借対照表	
資本金	五百萬圓	前年度繰越利益	三、九七五、〇〇〇	現金	一、〇〇〇、〇〇〇
準備金	四百萬圓	本年度利益	一、〇〇〇、〇〇〇	債権	二、〇〇〇、〇〇〇
其他準備金	五十萬圓	繰上利益	五〇〇、〇〇〇	不動産	三、〇〇〇、〇〇〇
其他準備金	五十萬圓	繰下利益	一〇〇、〇〇〇	其他資産	一、〇〇〇、〇〇〇
其他準備金	五十萬圓	繰上利益	五〇〇、〇〇〇	其他資産	一、〇〇〇、〇〇〇
其他準備金	五十萬圓	繰下利益	一〇〇、〇〇〇	其他資産	一、〇〇〇、〇〇〇



外に活動の紳士ほど

クレームレイト

肌を細かに色艶を添へ何時も地肌の荒を防ぐ



内にお仕事の御婦人も昨今クレームレイト許りには離れられぬ見馴れた御自身には知れなくても他人の目には歴々判る寒さの爲の肌の荒を自然に防ぐ本品の特効

大・平賀尾平・京東



今朝

毎朝

消化と胃腸の健康

金言事業は人々の健康なり

仁丹召上つてイッモ爽快!

日本住宅建築圖案百種

日本趣味の住宅を建築せんと各位の願る重寶な圖面集

建築書院

發行所 東京市京橋區南橋町十三番地 (電話東京九四一八) (電話京橋四七五)

第三百三十六席 早川貞水口演

[illegible]

○泰西人情劇 渾渾一氣 此于此母

○大英新聞 新聞紙 小説 日刊 日刊 先 後 作 業

○二頁 歐洲 戰亂 特別 大 迎 禮 〇 禮 物 之 意 義 之 間

○東京 聯合 公 報 〇 全 國 報 〇 百 五 十 冊

○東京 聯合 公 報 〇 全 國 報 〇 百 五 十 冊

○東京 聯合 公 報 〇 全 國 報 〇 百 五 十 冊

○東京 聯合 公 報 〇 全 國 報 〇 百 五 十 冊

○東京 聯合 公 報 〇 全 國 報 〇 百 五 十 冊

○東京 聯合 公 報 〇 全 國 報 〇 百 五 十 冊

○東京 聯合 公 報 〇 全 國 報 〇 百 五 十 冊

○東京 聯合 公 報 〇 全 國 報 〇 百 五 十 冊

○東京 聯合 公 報 〇 全 國 報 〇 百 五 十 冊

○東京 聯合 公 報 〇 全 國 報 〇 百 五 十 冊

○東京 聯合 公 報 〇 全 國 報 〇 百 五 十 冊

○東京 聯合 公 報 〇 全 國 報 〇 百 五 十 冊

○東京 聯合 公 報 〇 全 國 報 〇 百 五 十 冊

○東京 聯合 公 報 〇 全 國 報 〇 百 五 十 冊

○東京 聯合 公 報 〇 全 國 報 〇 百 五 十 冊

觀音、貸した鴉が、一向返してくれ
 ない代々の淺草寺住職に毆判しても
 が明かないので本尊の觀音像を流
 判と出かけた。大體に其の不都合を怒罵
 つたのを信徳總代松崎某が、開付
 充利三千圓になる處を先づ内金と
 て千三百圓を出し觀音像を買めて
 けるなと懇願し更に五百圓を渡し
 が其後金の千二百圓はそれなりに
 つてゐるので、經藏劫を襲やし觀音
 を、手に請來の詛託を出し來月二二
 公判開廷とまで運んだ

入院隨意（診費夜九時迄）

泌尿器科
 腎臟病
 膀胱病
 梅毒
 淋病
 痔瘡
 專問

永金
 安部
 醫學部
 泌尿器科
 九一四

新派劇角蘇振木村清恵一行
 二月十九日作
 役者花田の作
 破顔劇上場首二下二時 三等に限り十時

電話二九二
 御成座
 前狂言 本町綱五郎 全五冊
 切狂言 鎌倉三代記 全一巻
 佐々木高梧 早稲田五兵衛 次三巻
 日曜日延へし 早稲田五兵衛 全一巻

電話一〇五〇
 壽館
 武藏大橋 桃松軒巴合同大一座
 神方二五五座下 (浪花軒番恵 小栗
 判官 京山八千代 明治新聞三入娘月
 判官 吉田一奴 近江新聞遊藝辨天
 春田 柳生十兵衛 遊記 桃松軒巴
 一休 徳縁 義士銘々傳 (長壽二席
 藏大橋) 前日
 大橋入場料 一等十軒 半五座

大橋入場料 一等十軒 半五座
 黄金町四三三七
 電話二四三三七
 黄金館
 代埋店

いそよく御前登のさびやう語り
恐れながら、御前御縁には何者も
居りません。光「ナニ、汝等の日には
入らぬか彼の若白た露允々として居
る俵が分らぬか」ハチア子に見え
る計りで汝等に見えぬとは、狐狸が
怪の類であるかそれとも亦邪なくし
て一命を落せし者が此處へ来て予ん
訴ふるものか」と仰せられると、一
つとした其俵の妻が消えて失くさ
りました。

「お聞きなさい」

▲革命黨の金剛石 支那革命黨が軍
資金を調達せんが爲め、目下東京に
持つて来て居る直徑五分の金剛石
ある、此金剛石は昔て三萬圓の金
あるさの質品の扉に入つて居つた事
あるさうだ

▲御尊様よ金返せ 東京淺草區象
町大徳院藏王明治四年の百兩を、淺

[illegible]

瀨戸皮膚科醫院
(目丁三舊)目丁二町旭
士學醫
瀨戸潔
(番八九四二話電)
診療夜九時まで

備後屋
 御中食所
 數年の中をM.P.は特權は長きに
 御買上之光
 業と稱する
 最優良の品と御記憶
 賣行盛に
 倍々發展
 三田主づム製造合名會社製造
 發賣元安處御飯田商店



定價
 買法 貳拾圓 壹拾圓 貳圓 壹圓
 買法 貳拾圓 壹拾圓 貳圓 壹圓

精買
 東京日本橋本銀町山田安民藥房
 大阪南久寶寺町二山田安民藥房

硯方疝瘡湯

せんませんま
 腰痛の良藥



商標 登録
 定價 大瓶 十八錢 四十錢
 小瓶 十錢 二十錢
 本舖 田町本三郎

正月の胃

經年向の吐ひ過、原蘇の二日酔、櫻
 中胃を悪くして、胸やけ、げつど
 胸痛、嘔吐、正月早業から繰起でも無
 い、まして一年の計は元日にあり
 と云ふて、元日には一年中の事を終
 へて何事も善き方に
 こそ進まねばならぬ



人間の身の中にも胃は第一必要なる胃を悪くしてはならぬ、コンナ

時には薬酒に信用のある、五大軍醫の合議、胃活を、直ぐ召し上れ、グット胸が空いて、氣が満ちする。

而して此の國字解の特色は、其の解釋簡明、精確に日本化せしむるを得たるを鶴鳴其人が獨自の識見を以て其の通儒の講義を聞くが如くに在り。之を一讀す人ば胸臆萬卷、誡貫千古の通儒の講義を聞くが如く、書中難解の文字章句は及んで迎へて解くに似、卷首には蘇峰學人の解題あり、帝範臣軌の來歴も國字解の特色と、鶴鳴の爲人などを詳説し、餘す所なし。本書は單に帝王爲政者の鑑とするのみならず、何人も雖も必ず一讀す可き典籍にして、此の國字解を以て通俗國民讀本と稱するも過當に非ず。正に是れ明窓淨凡の上、第一に讀む可き良書也。

異に本社が成實堂叢書第七篇として、我國校勘學の泰斗符谷板齋手校の帝範臣軌を出すや、甚大なる天下同好者の歡迎を受け、忽ちにして品切となり、已むなく江湖の需に應ずる能はざりしが、今回徳川寶政時代經學の大家市川鶴鳴著の「帝範臣軌國字解」を刊行して、世間管學者の希望を充つとこなれり。

抑も帝範は唐太宗貞觀二十二年、帝親ら撰して太子に賜へ、以て愛王の儀範を垂示し、臣軌は則天武后垂拱元年、后自ら撰して人臣の軌法を示したるものにして、俱に是れ盛唐帝后の親製する所に係り、後世範軌を及稱して君臣鑑戒の明鏡と爲すもの、洵に所以ある也。

製綿帳 各種

蚊帳御買求の方は是非蝸牛印に御注意の上御試買あらん事を

大阪綿業株式會社製品特約店
蝸牛印製綿帳發賣元

山佐製綿帳工場
大阪市東區安土町三丁目
電話本局三千〇八十二番
振替口座大阪九六一五番
堺市住吉電話三十五番

◎山佐商報 每月一回發行
◎大正五年度 蚊帳定價表
右御申越次第通呈

古人の垂範は現代の鑑戒

蘇峰學人解題 市川鶴鳴原著
三六版總クロス金五拾錢 郵稅六錢
上製サツケ附

山本佐七商店

會 壹 年 卒 業

總 裁 大隈伯 顧問 農相 山本達雄 文部大臣 高田早苗
副總裁 澁澤男 問 農林博士 新渡戸宿造 農相 山本達雄 文部大臣 高田早苗
自 願 監 議 員 榮 吉

集 募 大 員

實 業 研 究 會

自 宅 獨 習 自 願 前 三 獎 官 事 近 藤 康 平 助 山 本 大 藏 大 臣 坂 谷 芳 郎
在 問 男 勇 森 村 市 左 衛 門 員 安 田 善 次 郎 安 田 善 次 郎 美

輸 出 向 各 種 地 向

蚊 帳 荷 揃 謹 告

直 綿

弊 店 工 場 撰 製 仕 立 蚊 帳 は 染 色 品 質 裁 縫 共 に 堅 牢 優 美 に して 廉 價 な る は 凡 て 他 品 を 優 越 す

須崎丸	二月廿六日	正午出帆
○清津丸	(元山出帆)	
▲北碓丸	二月廿八日	午後二時出帆
▲七浦丸	打狗行(大連出帆)	
▲北碓丸	二月廿五日	午前十時出帆
基隆丸	二月廿五日	午前十時出帆
電注丸	○新嘉坡及香港船會社の船主に ○新嘉坡及香港船會社の船主に ○新嘉坡及香港船會社の船主に	
仁川丸	大阪船會社駐支店	
京坂切符發賣	○京坂切符發賣	
中國四國沿岸各港行船	○中國四國沿岸各港行船	

[illegible]

新築 (以を模根下)
 御妻多し人少量宛用い居れば地土を
 引下げ便施と快速し廉潔を排除す
 〔開国日曜七日四月五日〕面西門南角
 本館に附けらるる前に早う用ひ給へ
 〔體制〕名古並城市小跡路一小林邊大盛
 大阪平野町小井大藥房東京總店及近郊平井湯
 廣野等 全編諸君無難ば寄金賜ふ所也

實業上に必要會一ヶ月五賃業
なる中學科目費十錢六之目
悉く網羅す費二圓八

日録

帝國實業講習會

當時一流の見本無
講師親切平
易に説明す代進呈

東京市橋南區尾町二十番地
會習講業實國帝

電報
七八
番
東京
市橋
南區
尾町
二十
番地

恐る梅毒療病絶滅
梅毒療病絶滅
梅毒療病絶滅
梅毒療病絶滅

サロニカ北方にて獨飛行機を鹵獲す

○議會終了は廿八日

●紙價暴騰問題
提出案の撤回

○親奏任昇進しんしやうしんしん
奏上

朝鮮輕鐵創立

は慶州より浦項に到る十八哩、第
 二は慶州より蔚山を経て東萊に到

嶺の多勢に對する懸測なるものなり
 したため月來氣迷の姿を呈せしが本
 之れに縣の製産品を網羅し鮮人に實

大豆も亦市價軟弱なるを前に
常關會に之れが條件を提出して
體的決議を爲すべしと（福間）

依り其の廢止又は繼續を決すべき
 なりしに其際猶ほ結果の不明なるも
 のありし爲め自然その儘延長せられ

福岡縣の如きは各種の製作品に乏し
七千重量概算八十萬貫に達し之を
單なる燃料とするも八千五百圓の

▲永遠に鮮人を顧客とする

朝鮮貿易發展の急務を唱名、通常會話に差岡なき迄に進歩する結果同縣實業團體聯合會亦たる者四千四百六十六名にして之

萬三千員△麥同百二十石△棉花
同七十萬貫△蘭同一萬石△桃同
育家として全國有數の老教師なりし

る能はず今茲に東京海上横濱海上等の古人書畫中特に傑出したるもの約八十點を複製して東河に其支

神中本月中の保險契約高は前月に比
し六十二萬三千餘圓保險料は一千六
百餘圓孰れも減少を來せり

獨逸の埃及遠征

山港に於ける潮水干満の差は頗る
大きい。海軍水路部の調査によれば
多く江景全州の兩平野よりする米穀
の輸送は是等の江水を利用すると頗

不便は絶對の不便と云ふものではな
る不便の一である。さう乍ら是等の
は敢て絮説を要せぬ是等交通機關の
變遷が群山に及ぼしたる影響は單に

第貳號 樸約貳萬
第參號 松約七千

不不發言戸

腰酢をする處はサテも見物だ▲が
 面にしてもまだ二面足らぬけれど
 の六臂で掻き回す處は山芋を捏ね
 たりする處と云ふ。

業

星印配合肥料、細工用地骨
 細工用蹄角各種膠及膠原料

石鹼部

京

いか▲何あに其れが當世の大政治
だよ

犬印
ご御指定

士門
実學
印

値は充分に了解が出来ると思ふ。後に港としての性質を云へば群山

士の双肩に在ると思ふ。米が生命
あり港が生命である以上、群山の
諸領金貸付爲替銀行一般

六拾尺
八百尺

富戸信

電話二六三五番

OXHL
大肥領
血貧
ス
第次越中
堂
四一京栗
販次取店

電話一一四番

業務、精力、御便利
電話一八番

著者ハ著書三百三十冊
 社能ハ我ガ電氣界の權威者也
 計能ハ我ガ電氣界の權威者也
 著者ハ著書三百三十冊
 社能ハ我ガ電氣界の權威者也
 計能ハ我ガ電氣界の權威者也

肥 料 部
 燕窩粉、乾血、蹄角粉
 星印配合肥料、細工用地骨
 細工用雞骨各種膠皮及膠原料
 石 鹼 部
 化碱用石鹼、工業用、家庭
 用石鹼、浮石鹼、粉末石鹼
 牛脂、椰子油、鯨油、其他
 油脂類、苛性曹達、洗曹達

京東城大門口外紅葉町
 朝鮮肥料製造所
 電話二六三五番
 京東城町町一四番地
 朝日石鹼製造所
 電話二五九四番
 電話二五九四番
 電話二五九四番

完全飼料
 品質相宜
 數種有品
 危險に付
 御註文は
 必ず

養 滋
 ET NAHRZUCKER
 小兒月勝
 滋強質液
 滋強質液
 滋強質液

内外各種ブラシ製造原毛販賣



貯蓄預金

元金百圓ニ付日步壹錢四厘金
壹錢以上何程ニテモ御預申候

株式會社長崎貯蓄銀行代理店

株式會社
十八銀行
京城支店

京城黄金町電話四三〇番五八〇番
振替貯金口座京城八一四番

同 龍山出張所

内外各種ブラシ製造原毛販賣

貯蓄預金

元金百圓ニ付日步壹錢四厘金
壹錢以上何程ニテモ御預申候

株式會社長崎貯蓄銀行代理店

株式會社
十八銀行
京城支店

京城黄金町電話四三〇番五八〇番
振替貯金口座京城八一四番

龍山出張所

